



九 葡萄栗鼠文大平鉢

径 四四・七cm
高台径 二一・〇cm

周辺部に地文黒描き緑軸帯状文を廻らせ、中心部は丸の中に緑、黄、紫で葡萄栗鼠文を描き入れ、その間は同案化した彩唐草文を配している。

興味深いのは裏面中央部の銘である。緑軸黒描きで「黒牛田、太浪」と書かれ、その下に花押らしいものが書かれている。黒牛田の二字目は牛を誤って牛と書いたか、或いは仁の変形かも知れない。「黒牛田」「黒仁田」のいずれにしても山辺田家の呼称である。

色絵古九谷で製作窯名を記した唯一の珍しい作品である。

類似品では藍九谷中皿で「肥前、年木山」銘作品がある。



三八 牡丹花文大壺

高 二六・〇cm
胴径 二六・八cm

胴径、高さ共に二六センチを超える大型作品である。古九谷の中でも類例の少ないものだろう。

口部はやや開き、真っ直ぐな首部には葉軸の中に白抜き窓梅文を四ヶ所に配し、肩部は濃淡の青軸唐草文を描き廻らせている。体部はふくよかで、全面に牡丹花文を描いている。古九谷らしい堂々とした大壺である。



九五 梅文扇面小皿

長径 一六・四cm
高台長径 一一・八cm

少しずらして二つの扇面を重ね合わせた器形である。器縁は緑紅を施し、上部には地文緑柳をうめ、下部は白地の中に赤を主体に梅花枝文を描き入れている。上下部分の配色対比が美しい。

裏面は器形に則して高台を作り、側面二方に蔓草花文を描き、染付で高台欄目文と中心部に方形銘を描いている。



七八 丸文猪口

径 六・三 cm
高 七・三 cm

上部に赤で扇状文を廻らせ、体部三方に緑どり縁飾丸文を描いている。
古九谷には諸種作風品がみられるが、本品のような簡明快な文様猪口はなかなか見られないものだろう。雅趣に富む独特の魅力を示している。高台内が無軸であるのも趣を増している。愛らしい猪口である。